

ロシアは、中国に対する戦闘機技術の技術移転契約を継続する

漢和防務評論 20130625

(訳者コメント)

漢和防務評論ネット版 6 月号の記事を紹介します。

記事によると、中国が契約に違反してロシア戦闘機を違法コピーした問題は、中国が新たに新型の SU-35 を輸入することで決着に向かっているようです。しかし、中国が本当に契約を履行するかどうか、ロシア航空工業界の技術者たちは疑っているようですが。政治決着が優先するようです。

KDR モスクワ YURI BSKOV、平可夫パリ特電：

ロシア航空工業界の指導者は KDR に対し：ロシアは” SU-27SK の生産技術を中国に移転する契約”の規定に基づき、引き続き中国に AL-31F エンジンを提供する、と述べた。

この契約は、1996 年に締結され、中国が 200 機の SU-27SK 戦闘機を生産し、ロシアはそれに見合う数の AL-31F エンジンを提供するものであった。契約は終了時期が明確でなかった。

2002 年以降、中国は一方向的にこの契約を履行しなくなり、勝手に J-11 (SU-27SK)、J-15 (SU-33)、J-16 (SU-30MK2) 型戦闘機を生産し、かつ” SU-27SK 契約”の名目で大量の AL-31F 型エンジンを輸入し、コピー機である J-11、J-15、J-16 型戦闘機に取付けた。

”我々は、この契約はもはや有名無実であると認識している。中国はこの契約に基づいて 95 機の SU-27SK 戦闘機を生産しただけである。しかし中国に AL-31F を提供する契約は付随契約である。中国側は長年この契約を利用し、輸入した AL-31F エンジンを彼らがコピーしたスホーイ戦闘機に装備してきたと我々は見ている”。ロシアの権威筋はこのように述べた。

我々（ロシア）は、何度も彼ら（中国）に警告した。もしスホーイ戦闘機を継続して購入しないのであれば、我々は、中国への“SU-27SK 技術移転契約”を中止する必要があると考えた。なぜなら中国は、契約に規定した数以上の AL-31F エンジンを獲得したからだ。同権威筋はこのように説明した。

このロシア側の反応は、中国が SU-35 を輸入せざるを得ない大きな要因になっ

たと KDR は見ている。すなわち：ロシアは次のように中国に通告した。：もし中国がスホーイ戦闘機のコピー生産を継続し、新たに SU-35 を輸入しないならば、ロシアは” SU-27SK の生産技術移転契約” を破棄する、と。そうなると中国がロシア製エンジンを入手できなくなる可能性がある。

中露が “SU-35 の対中輸出に関する事前協議” に署名したことは、ロシアが引き続き中国に AL-31F エンジンを提供し、同時に近年来問題化していた J-15、J-16 のコピー問題もロシアが容認したことを意味する。

SU-35 の対中輸出問題について、ロシア航空工業界の権威筋は、次のように述べた。：現在第一段階にある。スホーイ航空機集団総裁 M.POGOSYAN は、航空機の単価を速やかに決定し、その後、ロシア国家武器輸出入総公司 (ROSOBORONEXRORT) に提出する。後者は、サービス経費を上乗せし、最終価格を中国側に提示し、次の段階の交渉に入る。ロシアの法律によると、国家武器輸出入総公司だけが武器輸出入契約に署名することができる。

通常の下況下では、国家武器輸出入総公司は契約金額の約 3 % を手続き費として領収し、契約履行について法的責任を負う。

その他各種情報源によると、中国は SU-35 を 24 機しか買わないので、48 機購入するロシア軍版 SU-35 に比べ中国版 SU-35 は単価が高くなるという。また基礎研究費用をロシア軍と分担することも考慮しなければならない。この考え方は米国やフランスの製造会社も同じである。中国版 SU-35 の金額は、現在マスメディアが報道している金額よりも高くなると KDR は見ている。

以上